

# 遠野遺産の認定と保護活動の推進について



多田 勉 議員  
(清風会)

**問**

市内の地滑りや急傾斜地崩壊など、土砂災害の危険性が高い箇所におけるこの度の大地震後の検証結果は。

また、公共交通施設の交通規制等で、災害時に市民の安全確保が困難となり、孤立状態を招く地域の今後の防災対策は。

**答**

平成21年に土砂災害警戒区域指定箇所53か所を点検調査し、22年には土砂災害防止のため、危険エリア内をパトロールした。3月の地震発生以来662回の揺れを観測しており、梅雨を迎えるこの時期、土砂崩れ等の可能性がある。市では、緊急性の高い10か所を点検した。更に県と合同で点検を実施する予定である。今後も定期点検、パトロール等に努め、孤立状態を招く恐れのある地域についても、地域防災計画で避難対策計画等の見直しを図り、「安全・安心なまちづくり」に努める。

**問**

平成19年に制定された遠野遺産認定制度は、地域など団体による推薦となっているが、産業等でも歴史に名を残すような名所地など、市民が推薦したい場合の受け皿も本制度で支援すべきでは。

**答**

地域の宝107件を遠野遺産として認定し、市民との協働により保護、活用を図っており、地区センターが橋渡しとなって進めている。遠野文化研究センターも加え、地域と連携を図りながら更なる地域文化の掘り起こしと遺産認定を推進し、地域づくりの活性化につなげたい。

**問**

桐町町上線は道幅も狭く、中学校再編が進む中、通学路としての安全対策が求められる。市民の交通安全確保を図るための歩道整備について、考えを伺いたい。

**答**

桐町町上線は、一部歩道を整備しているが、歩道整備され

た国道や上宮守線があり、ネットワークは構築されている。冬期間の除雪による不便さに関して、適正な除雪に努め、歩行者の安全確保に考慮

した維持管理を行う。指摘の歩道整備に関しては、今後の状況や市民の要望などを加味して考える。



急ピッチで行われた被害状況の確認作業